

## <東京経済大学特別講義（2013年7月3日）>

「新興国における政治・経済分析及び企業の進出支援に関する在外公館の役割」：学生からの質問とそれらに対する回答（鈴木 渉）

### 学生からの質問 1

ドミニカ共和国と日本の間でこれから貿易が盛んになったり、今後日本がドミニカの鉱物を輸入する見通しはありますか？

（鈴木からの回答）

二国間の貿易総額は2000年代前半と比較して、ここ数年はちょっと落ち気味ですが、食料（コーヒー、カカオ、ラム酒、シガーなど）や原料調達（ニッケル、ボーキサイト）の関連で増加する可能性はあります。

<参考 Website>

財務省貿易統計（国別総額表、国別品別表から検索）

<http://www.customs.go.jp/toukei/srch/index.htm>

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）

[http://mric.jogmec.go.jp/public/current/13\\_12.html](http://mric.jogmec.go.jp/public/current/13_12.html)

[http://mric.jogmec.go.jp/public/report/2012-04/Dominica\\_12.pdf](http://mric.jogmec.go.jp/public/report/2012-04/Dominica_12.pdf)

### 質問 2

ドミニカ共和国では石油も取れるが輸入に頼っているとの事だが、これは採掘量が少ないからですか？ それともまだどの国も進出していないためでしょうか？

（回答）ドミニカ共和国に石油・天然ガスの鉱脈は100年前からその存在が確認されており、米国資本を中心とした外資企業が一部で採掘を行っていますが、未だ正式生産には至っていません（詳細は「ドミニカ共和国を知るための60章」第21章・42章を参照）。よって、石油・天然ガス共に、輸入に頼っています。

<参考 Website>

“ペトロカリブ協定”（ベネズエラが一部の中南米・カリブ諸国に格安で原油を供給するプログラム：ドミニカ共和国もその恩恵を受ける一国）

<http://www.iti.or.jp/kikan66/66uchida.pdf>

<http://d.hatena.ne.jp/navi-area26-10/20080714/1216034338>

### 質問 3

日本の大使館では日本の大学生のインターンシップを積極的に受入れていると聞いた事があります。ドミニカでは現地の学生と大使館の交流はありましたか？

(回答) 正直、在外公館でインターンを受入れているという話は聞いた事はありません(笑)。仮に受入れているとしても、短期かつかなりの専門性が要求されるポジションだと思います(以下 HP 参照)。

なお、現地の学生と大使館の交流としては、内閣府が行っている「青年交流事業」があります。これは毎年 12~3 名の若者をドミニカ共和国及び日本側から募集し、3 週間程相互の国を訪問して、文化・歴史などを学んだり、あるトピックに関して議論・討論したりするというもので(要上級英語力)、ドミニカ青年の選考は、大使館の文化担当官が行いました(日本側は内閣府)。2012 年度は、ドミニカ共和国(過去 10 年連続で選出)、ラオス、ヨルダン、エストニアの若者と交流がありました。2013 年度も引き続き募集しています。興味があれば応募してみてください。

<参考 Website>

日本人留学生インターン(外務省国際機関人事センター)

[http://www.mofa-irc.go.jp/shikaku/intern\\_ned.html](http://www.mofa-irc.go.jp/shikaku/intern_ned.html)

内閣府青年交流事業(平成 23、24 年度:ドミニカの様子もあります)

<http://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/data/ikusei.html>

平成 25 年度募集

<http://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/bosyu.html>

#### 質問 4

企業の進出において大きな障壁となっている事は何でしょうか? また、鈴木さんがドミニカの生活の中で一番印象に残っている事は何でしょうか?

(回答) 外資企業のドミニカ進出における障壁は複雑な関税・輸入税制度に加え、透明性の欠如、政府組織の汚職・腐敗、契約の不履行、頻繁に変わる各種法制度・税制、規格化の不足、海賊品の横行、停電の頻発、インフラ不足、などです(「ドミニカを知るための 60 章」第 28 章参照)。よって、大使館は日本企業の方々にはこれらについて随時必要に応じて情報提供を行っています。

一番印象に残っているのは、ある田舎を自動車で行く途中、突然パンクになってしまったのですが、周りにいる人々や工事現場の労働者の方々が快くタイヤの交換を手伝ってくれた事です。御陰様でクジラ見学ツアーの時間に間に合いました(笑)。

#### 質問 5

(鈴木個人に対して) 何故マンチェスター大学に入り直したのですか? 政治経済・企業支援担当になったのは何故ですか?

(回答) 元々 IT・通信業界でグローバル営業とプロジェクトマネジメントの仕事をしていたのですが、学問は常に「政治、経済、開発学」を一貫して行っていました

た。仕事に疲れた事もあり（笑）、ちょっとオフを取って大学院に行って、自分の好きな「政治経済」の勉強をやってみようと思ったのがきっかけです。英国は近代政治経済学の大家（Adam Smith, David Ricardo, James Mill など）を生み出している国であり、産業革命時に世界経済の中心だったマンチェスターなら様々な形で勉強も出来ると思い、マンチェスター大学を選びました。

以前から自分の趣味（政治経済）を生かした仕事に就きたいとの思いがあり、英国留学中に「外務省専門調査員」の事を聞いて、試験を受けた次第です。「政治経済・企業支援担当」になったのは自分の学問（政治経済）と企業でのビジネス経験が生かせると思ったからです。

<参考 Website>

マンチェスター大学大学院（政治経済学）

<http://www.socialsciences.manchester.ac.uk/PEI/ma/>

専門調査員募集

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/saiyo/senmon/>

#### 質問 6

今、日本からドミニカに企業が進出するとしたら、どのような企業が良くかと考えていますか？

（回答）おそらく、米国や中南米への輸出を前提とした、アパレルや革製品、工業製品・部品などを製造している企業が良くかと思います。その理由として、①ドミニカ共和国は米国、中米諸国、一部の南米諸国と自由貿易協定（FTA）を締結しており、原則無関税でそれらの国に輸出可能なこと、②外資のドミニカ進出に関し、フリーゾーンを中心に様々な「免税」や恩恵規定が用意されていること、③比較的高い生産能力を持つ労働者を低賃金で雇用出来ること、が挙げられます（「ドミニカを知るための 60 章」第 28 章参照）。

#### 質問 7

ドミニカから来日した企業はどのような企業ですか？ また、ドミニカに進出している外資企業に対するデモ活動は行われた事がありますか？

（回答）Foodex 2013 に参加した企業は計 4 社で、その内訳はコーヒー生産・輸出業者が 2 社、フレーバーラム酒業者が 1 社、アボガド・マンゴピューレ生産・輸出業者が 1 社です。なお、恒久的に日本で活動しているドミニカ企業はありません（個人ベースの商売は除く）。

はい、あります。カナダ資本の鉱山会社に対する金、銀、銅の採掘に関して、環境保護や地元住民雇用の観点で、NGO や市民団体が抗議活動を行っています。

<参考 Website>

Foodex 2013 「JETRO ゾーン」

<http://www.jetro.go.jp/foodex2013/>

JETRO ゾーン参加企業（ドミニカからの4社をチェック可能）

[http://www.jetro.go.jp/foodex2013/pdf/exhibitors\\_list0218.pdf](http://www.jetro.go.jp/foodex2013/pdf/exhibitors_list0218.pdf)

#### 質問 8

ドミニカ人にとって「野球」とは何ですか？

（回答）国民的娯楽だと思います。ドミニカには6チーム総当たり制のプロ野球リーグ（通称ウィンターリーグ）があり、非常に盛り上がります。毎年2月に行われる「カリビアンシリーズ」はメキシコ、プエルトリコ、ベネズエラ、ドミニカ共和国の優勝チームがカリブ海王者を目指して戦うもので、期間中国民は皆ゲームの展開に夢中になります。

貧困層にとっては成功への道のりで、将来のメジャーリーガーになるべく、如何に大リーグ球団が持つ「野球アカデミー」に入るかが人生最大の目標と言えるでしょう。因みに広島東洋カープもアカデミーをドミニカ国内に持っています。

<参考 Website>

広島東洋カープ「ドミニカ共和国アカデミー」

<http://www.carp.co.jp/facilities13/dominica.html>

#### 質問 9

ドミニカ共和国の失業率が高いのは何故ですか？

（回答）増え続ける若年人口層に対し、官・民共に十分な雇用を提供出来ないのが最大の原因でしょう。政府機関を拡大して雇用を提供するには限界がありますから、民間、特に外国企業からの投資を受けて、産業の裾野を広げ、ドミニカ国内の雇用を増やすのが、今メディーナ大統領に求められている事だと思います。

#### 質問 10

ドミニカの治安はあまり良くないのでしょうか？ 旅行は快適に出来ると思いますか？

（回答）2000年代前半と比較すると、明らかに過去5～6年の犯罪（強盗、殺人、麻薬、マネーロンダリングなど）は増加傾向にあります。これは、近年ドミニカ共和国が主に南米から北米・欧州に「輸出」される違法ドラッグ（主にコカイン）の中継地点になっており、ドラッグ絡みの犯罪が増えていることにあります。また、貧富の差が広がっており、貧困層による富裕層への犯罪行為（窃盗、強盗、誘拐など）も増えています。

よって、一般旅行者が気をつける事は、違法ドラッグには関わらない事は勿論のこと、常に周りの状況に気を配りながら、知らない人とは話さない、多額の現金を持ち歩かない、貴重品を見せない、事前に治安状況についてリサーチするなどの対策が必要です。その点をキッチリ守れば楽しい時間を過ごせると思います。

<参考 Website>

外務省海外安全ホームページ

[http://www.anzen.mofa.go.jp/manual/dominican\\_republic.html](http://www.anzen.mofa.go.jp/manual/dominican_republic.html)

カリブ海の会社員の生活

<http://blogs.yahoo.co.jp/skpanic/59735186.html>

#### 質問 11

ドミニカってどんな食事がポピュラーですか？ 海産物が多そうですね、これだけは食べておけ、というものが知りたいです。

(回答) 意外とドミニカ人は海産物を食べません。そもそも、漁業が盛んで無いので(漁船と大型冷蔵庫が不足)、魚を食べる文化はあまりないです。ただ、肉は牛、豚、ヤギなどを食べます。あとアボガドやアビチュエラと言われる大粒の赤豆に加え、ユカ芋やフライドバナナも結構食べますね。あと炭水化物は米が中心です。

代表的なメニューは、サンコーチョ(肉や野菜がふんだんに入ったスープ)、トストン(食用バナナを揚げたもの)、チチャロン(豚の丸焼き)、モホンゴ(チチャロンとトストンを混ぜ、潰したもの)、チボ・ギサード(ヤギ肉の煮込み)、モンドンゴ(牛のモツ煮)などがあります。あと日本の幕の内弁当に相当するのが「バンデーラ」ですね。ドミニカ食は高カロリーですが、味は非常に日本人に合うと思います！

<参考 Website>

「ラ・バンデーラ：ドミニカ料理」

<http://e-food.jp/recipe/america/labandera/>

「サントドミンゴ・マロカフェ」(銀座にあるドミニカ料理のレストラン)

<http://tabelog.com/tokyo/A1301/A130101/13134071/>

#### 質問 12

これから新興国の大使館で働く職員は増えて行くのでしょうか？

(回答) 確実に増えて行くと思います。日本経済が発展して行く上で、新興国の旺盛な需要を取り込んで行くのは必須です。例えば政府は「インフラ輸出戦略」を発表し、新興国の道路、通信、発電施設、港湾、空港などのインフラ整備を日本企業が持つ高いノウハウを利用して行うとの方針を明確にしており、国際貢献と日本企業の利益拡大を目指しています(後者は日本の雇用も生み出す)。

また、原油や天然ガス、レアメタルやレアアースなどの日本人の生活や日本の産業に必須な「戦略物資の調達」に関しても、その大半が新興国にあることもあり、現地国政府や企業との折衝窓口になる在外公館の役割は今まで以上に重要となると思います。

現在政府はアフリカにおける公館を増やしており、それに伴って現地で働く職員も増えるのは必須です。また、これからは新興国や日本の国益、ビジネスを理解した、より経験豊かな外交官の赴任が求められると思います。

<参考 Website>

首相官邸「インフラシステム輸出戦略」

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keikyou/dai4/kettei.pdf>

経済産業省「レアメタル等の確保に向けた取り組みの全体像」

<http://www.env.go.jp/council/03haiki/y0326-03/mat03.pdf>

外務省「インフラプロジェクト専門官」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/infrastructure/senmonkan.html>

#### 質問 13

日本とドミニカ共和国は国のキャラクターにかなりの違いがありそうですが、具体的にお互いの国にどのような市場の需要があると考えていますか？

(回答) 日本は約束を守り、時間厳守で、しっかりした製品を作れる。一方ドミニカはルーズで約束も微妙だが、フレキシブルで発想力があり、ゼロから新しいものを作る能力があると思います。

具体的にはドミニカには法制度、インフラ、金融市場、製造業などが不足していますから、それらの推進に関するコンサルティングや問題解決が出来る企業が進出すれば、かなりの需要を取り込めると思います。

一方、日本には熱帯農産物やラム酒、シガー類に加え、ビーチリゾートやエコツアー、楽天的な生活（音楽、ダンスも含む）が不足しています。よって、それら農産物の取引や、日本からのドミニカへの「一味違う」観光などに需要があると思われます。

他にご質問等あればご遠慮なく、[suzukiw@hotmail.com](mailto:suzukiw@hotmail.com) まで御知らせ下さい。

以 上